

〔原著〕 松本歯学 14 : 218~227, 1988

key words: 冠 — 経年的装着頻度 — 統計

昭和60年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その1 単独冠について

大溝隆史, 竹下義仁, 岩井啓三, 石原善和
片岡 滋, 高橋喜博, 大島俊昭, 稲生衡樹
伊藤晴久, 乙黒明彦, 三沢京子, 岩根健二
甘利光治

松本歯科大学 歯科補綴学第2講座 (主任 甘利光治 教授)

中根 卓

松本歯科大学 口腔衛生学教室 (主任 近藤 武 教授)

A Statistical Observation of Crowns and Bridges in 1985 Part 1 Single crown

TAKAFUMI OHMIZO, YOSHIHITO TAKESHITA, KEIZO IWAI,
YOSHIKAZU ISHIHARA, SHIGERU KATAOKA, YOSHIHIRO TAKAHASHI,
TOSHIAKI OHSHIMA, KOHKI INABU, HARUHISA ITOH,
AKIHIKO OTOGURO, KYOHKO MISAWA, KENJI IWANE
and MITSU HARU AMARI

*Department of Prosthodontics II, Matsumoto Dental College
(Chief : Prof. M. Amari)*

SUGURU NAKANE

*Department of Community Dentistry, Matsumoto Dental College
(Chief : Prof. T. Kondo)*

Summary

A study was made of 1120 crowns which had been fabricated for patients at the Prosthodontic Clinic of Matsumoto Dental College during 1985.

Some of the results were as follows :

- 1) 43.15 % of the patients were males and 56.85 % were females.
- 2) 87.70 % of the patients were between 20 and 59 years old.

3) Crowns of the upper abutment teeth were more abuted than the lower abutment teeth.

4) 75.54 % of the crowns were fabricated for nonvital teeth.

5) 50.27 % of the crowns were fabricated as full cast crowns, 24.91 % as facing crowns (22.14 % as porcelain fused to metal crowns, 2.77 % as resin facing crowns), 8.84 % as jacket crowns (8.66 % as resin jacket crowns and 0.18% as porcelain jacket crowns), 14.64 % as partial coverage crowns and 1.34 % as dowel crowns.

緒 言

各種補綴物の統計的調査によって、その時々補綴学の発展、材料や技術の進歩、および社会情勢の実態などが推定でき、さらには将来の展望に対し、多くの示唆が得られる。

私達の講座でも、松本歯科大学病院補綴診療科における冠・架工義歯補綴物の装着状況を知るため、昭和47年から一連の経年的調査を行い、報告¹⁻⁵⁾してきた。

そこで今回は、昭和60年1月から同年12月までの1年間について、松本歯科大学病院補綴診療科で作製、装着された単独冠を中心に調査し、併せて昭和59年の調査報告⁵⁾と比較検討したので報告する。

調査方法と項目

松本歯科大学病院、補綴診療科における昭和60年1月より同年12月に至る1年間の外来患者496名および作製、装着された単独冠1120個について、病院歯科診療録、補綴科院内カルテ、材料センター材料支給伝票等を資料とし、分類集計器、バスキーⅢA(日本信号株式会社製)を用いて、収集データを分類集計後、以下の各項目について調査した。

A. 患者総数と地域別患者数

単独冠および架工義歯を施した患者の住所を塩尻市内、これを除く長野県内および長野県外とに区別し、その数を調査した。

B. 性別および年齢階級別患者数

患者の年齢を20歳未満、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代および80歳以上の8階級に分け調査した。

C. 装着物を単独冠および架工義歯に分け、その総数を調べた。

D. 単独冠について

1. 年齢階級別装着頻度

患者の年齢を前記B項に準じて区分し、各年齢階級の装着頻度を調べた。

2. 性別装着頻度

3. 部位別装着頻度

装着部位を上、下顎および前歯部、小臼歯部、大臼歯部の各歯群に分け調査するとともに、年齢階級別装着頻度との関係を調査した。

4. 支台歯の生、失活歯別装着頻度

支台歯を生、失活歯別に分類して装着頻度を調査するとともに、年齢階級別および部位別装着頻度との関係を調べた。

5. 種類別装着頻度

支台装置の種類を全部铸造冠、一部被覆冠、前装冠(既製陶歯前装冠、陶材浴着铸造冠、レジン前装冠の3種)、ジャケット冠(陶材およびレジンジャケット冠の2種)およびアタッチドタイプボストクラウン(以下継続歯と略す)に分類して、それらの装着頻度を調査するとともに年齢階級別、性別および部位別装着頻度との関係を調べた。

6. 支台築造体について

支台築造体をキャストコアー、レジンコアー、アマルガムコアー、セメントコアーに分類して、その築造頻度を調べると同時に、築造部位および単独冠の種類別築造頻度との関係を調査した。

調査成績

A. 患者総数と地域別患者数

1. 年齢階級別装着頻度

表1に示すように、単独冠および架工義歯を装着した患者総数は496名で、その構成について地域別にみると、塩尻市内を除く長野県内の患者が282名(56.85%)で過半数を占め、次いで塩尻市内在住者が196名(39.52%)で、長野県外在住者は18名(3.63%)しかみられなかった。

B. 性別および年齢階級別患者数

表2に示すように性別では、男が214名(43.15%)女が282名(56.85%)と、女が男を構成率が13.71%上回り、年齢別では20歳代から50歳代までで全体の87.70%を占めた。

C. 単独冠および架工義歯の装着頻度

昭和60年1ヶ年の単独冠の装着数は1120個、架工義歯は260装置であった。

D. 単独冠について

表3に示すように最も多かったのは、30歳代(314個, 28.04%)で、20歳代(273個, 24.38%)、40歳代(243個, 21.70%)と続き、20歳代から50歳代までで全体の88%以上を占めていた。

2. 性別装着頻度

表7に示すように、女性に装着された単独冠は691個, 61.70%で過半数を占めていた。

3. 部位別装着頻度

表3に示すように、顎別では上顎(681個,

60.80%)が下顎(439個, 39.20%)を大きく上回り、歯群別には、上顎では前歯部(280個, 25.00%)、大臼歯部(240個, 21.43%)、小臼歯部(116個, 14.38%)、下顎では大臼歯部(207個, 18.48%)、小臼歯部(178個, 15.89%)、前歯部(54個, 4.82%)の順であった。最も装着頻度の高かったのは、上顎前歯部で、最も低かったのは下顎前歯部であった。また年齢階級別との関係においては、前歯部では、すべての年代において上顎が下顎を上回っていたものの、小臼歯部では40歳代以上は下顎が上顎を上回り、大臼歯部では30歳代から60歳代で上顎が下顎を上回っていた。

4. 支台歯の生、失活歯別装着頻度

表4, 5は単独冠支台歯の生、失活歯別装着頻度と年齢階級別および部位別の関係を表わしている。全体では生活歯支台のものが274個(24.46%)、失活歯支台のものが846個(75.54%)であった。次に年齢階級別との関係では、20歳未満を除く全ての年代で失活歯が生活歯を上回っており、部位別には全ての部位で失活歯が生活歯を上回っていた。

5. 種類別装着頻度

表6~8は単独冠支台装置の種類別装着頻度と年齢階級別、男女別および部位別頻度との関係である。全体では全部鑄造冠が563個(50.27%)、前装冠が279個(24.91%)、一部被覆冠が164個(14.64%)、ジャケット冠が99個(8.84%)、継続歯が15個(1.34%)の順であった。さらに前装冠

表1：地域別患者数

地域	患者数	
	昭和60年	昭和59年
塩尻市内	196 (39.52)	284 (44.24)
長野県内 (除・塩尻市内)	282 (56.85)	349 (54.36)
長野県外	18 (3.63)	9 (1.40)
計	496 (100.00)	642 (100.00)

()%

表2：性別および年齢階級別患者数

性別	年齢階級 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		男	昭60	13 (2.62)	49 (9.88)	45 (9.07)	49 (9.88)	35 (7.06)	13 (2.62)	10 (2.02)
	昭59	8 (1.25)	56 (8.72)	71 (11.06)	47 (7.32)	57 (8.88)	35 (5.45)	2 (0.31)		276 (42.99)
女	昭60	10 (2.02)	74 (14.92)	90 (18.15)	54 (10.89)	39 (7.86)	13 (2.62)	2 (0.40)		282 (56.85)
	昭59	11 (1.71)	75 (11.68)	133 (20.72)	64 (9.97)	61 (9.50)	19 (2.96)	3 (0.47)		366 (57.01)
計	昭60	23 (4.64)	123 (24.80)	135 (27.22)	103 (20.77)	74 (14.92)	26 (5.24)	12 (2.42)		496 (100.00)
	昭59	19 (2.96)	131 (20.40)	204 (31.78)	111 (17.29)	118 (18.38)	54 (8.41)	5 (0.78)		642 (100.00)

()%

昭60：昭和60年

昭59：昭和59年

表3：単独冠の年齢階級別および部位別装着頻度

年代	調査年	部位									
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8	8+8
20歳未満	昭60	6 (0.54)	8 (0.71)	14 (1.25)	28 (2.50)		4 (0.36)	16 (1.43)	20 (1.79)	48 (4.29)	
	昭59	9 (0.63)	4 (0.28)	1 (0.07)	14 (0.98)	1 (0.07)		5 (0.35)	6 (0.42)	20 (1.39)	
20歳代	昭60	78 (6.96)	36 (3.21)	58 (5.18)	172 (15.36)		34 (3.04)	67 (5.98)	101 (9.02)	273 (24.38)	
	昭59	69 (4.81)	54 (3.76)	64 (4.46)	187 (13.03)	3 (0.21)	34 (2.37)	68 (4.74)	105 (7.32)	292 (20.35)	
30歳代	昭60	81 (7.23)	52 (4.64)	67 (5.98)	200 (17.86)	12 (1.07)	49 (4.38)	53 (4.73)	114 (10.18)	314 (28.04)	
	昭59	102 (7.11)	75 (5.23)	96 (6.69)	273 (19.02)	9 (0.63)	69 (4.81)	93 (6.48)	171 (11.92)	444 (30.94)	
40歳代	昭60	40 (3.57)	38 (3.39)	55 (4.91)	133 (11.88)	19 (1.70)	48 (4.29)	43 (3.84)	110 (9.82)	243 (21.70)	
	昭59	46 (3.21)	49 (3.41)	36 (2.51)	131 (9.13)	14 (0.98)	44 (3.07)	47 (3.28)	105 (7.32)	236 (16.45)	
50歳代	昭60	48 (4.29)	20 (1.79)	32 (2.86)	100 (8.93)	12 (1.07)	29 (2.59)	18 (1.61)	59 (5.27)	159 (14.20)	
	昭59	64 (4.46)	45 (3.14)	45 (3.14)	154 (10.73)	33 (2.30)	72 (5.02)	33 (2.30)	138 (9.62)	292 (20.35)	
60歳代	昭60	19 (1.70)	5 (0.45)	12 (1.07)	36 (3.21)	9 (0.80)	9 (0.80)	7 (0.63)	25 (2.23)	61 (5.45)	
	昭59	30 (2.09)	27 (1.88)	21 (1.46)	78 (5.44)	18 (1.25)	28 (1.95)	13 (0.91)	59 (4.11)	137 (9.55)	
70歳代	昭60	8 (0.71)	2 (0.18)	2 (0.18)	12 (1.07)	2 (0.18)	5 (0.45)	3 (0.27)	10 (0.89)	22 (1.96)	
	昭59	1 (0.07)	2 (0.14)	2 (0.14)	5 (0.35)	7 (0.49)	2 (0.14)		9 (0.63)	14 (0.98)	
80歳以上	昭60										
	昭59										
計	昭60	280 (25.00)	161 (14.38)	240 (21.43)	681 (60.80)	54 (4.82)	178 (15.89)	207 (18.48)	439 (39.20)	1120 (100.00)	
	昭59	321 (22.37)	256 (17.84)	265 (18.47)	842 (58.68)	85 (5.92)	249 (17.35)	259 (18.05)	593 (41.32)	1435 (100.00)	

() %
昭60：昭和60年
昭59：昭和59年

においては陶材溶着鑄造冠が248個(22.14%) レジン前装冠が31個(2.77%)で既製陶歯前装冠の使用はみられなかった。また、ジャケット冠についてはレジンジャケット冠が97個(8.66%)でポーセレンジャケット冠はわずかに2個(0.18%)であった。次に年齢階級との関係を見ると、20歳代から70歳代までの間で最も多かったのは全部鑄造冠であり、前装冠の中では陶材溶着鑄造冠が各年代の中で最も多かった。また、60歳代、70歳代の各年代ではジャケット冠が前装冠を上回っていた。性別との関係では、男女とも支台装置の中では全部鑄造冠が最も多く、またレジン前装冠とレジンジャケット冠を除く他の支台装置は、女の方が男を上回っていた。部位別との関係では、前歯

部は上顎において陶材溶着鑄造冠174個(15.54%)、レジンジャケット冠70個(6.25%)、レジン前装冠の順であった。また下顎においてはレジンジャケット冠25個(2.23%)、陶材溶着鑄造冠21個(1.88%)の順であった。次に小臼歯部をみると上下顎とも全部鑄造冠が最も多く、次いで一部被覆冠、陶材溶着鑄造冠の順であった。大臼歯部についても上下顎とも全部鑄造冠、一部被覆冠の順であった。

6. 支台築造体について

表9、10は支台築造体の種類別築造頻度と部位別、装着冠の種類別頻度との関係を表したものである。キャストコアが776個(93.49%)で最も多く、以下レジンコアは26個(3.13%)、セメン

表4：単独冠支台歯の生・失活歯別および年齢階級別装着頻度

支台歯の状態	年齢階級 調査年	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	計
		生活歯	昭60 40 (3.57)	71 (6.34)	73 (6.52)	46 (4.11)	33 (2.95)	5 (0.45)	6 (0.54)	
	昭59	2 (0.14)	61 (4.25)	74 (5.16)	37 (2.58)	32 (2.23)	35 (2.44)	5 (0.35)		246 (17.14)
失活歯	昭60	8 (0.71)	202 (18.04)	241 (21.52)	197 (17.59)	126 (11.25)	56 (5.00)	16 (1.43)		846 (75.54)
	昭59	18 (1.25)	231 (16.10)	370 (25.78)	199 (13.87)	260 (18.12)	102 (7.11)	9 (0.63)		1189 (82.86)
計	昭60	48 (4.29)	273 (24.38)	314 (28.04)	243 (21.70)	159 (14.20)	61 (5.45)	22 (1.95)		1120 (100.00)
	昭59	20 (1.39)	292 (20.35)	444 (30.94)	236 (16.45)	292 (20.35)	137 (9.55)	14 (0.98)		1435 (100.00)

()%

昭60：昭和60年

昭59：昭和59年

表5：単独冠支台歯の生・失活歯別および部位別装着頻度

支台歯の状態	部位 調査年	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8
		生活歯	昭60 44 (3.93)	36 (3.21)	59 (5.27)	139 (12.41)	11 (0.98)	49 (4.38)	75 (6.70)	135 (12.05)
	昭59	30 (2.09)	54 (3.76)	58 (4.04)	142 (9.90)	14 (0.98)	44 (3.07)	46 (3.21)	104 (7.25)	246 (17.14)
失活歯	昭60	236 (21.07)	125 (11.16)	181 (16.16)	542 (48.39)	43 (3.84)	129 (11.52)	132 (11.79)	304 (27.14)	846 (75.54)
	昭59	291 (20.28)	202 (14.08)	207 (14.43)	700 (48.78)	71 (4.95)	205 (14.29)	213 (14.84)	489 (34.08)	1189 (82.86)
計	昭60	280 (25.00)	161 (14.38)	240 (21.43)	681 (60.80)	54 (4.82)	178 (15.89)	207 (18.48)	439 (39.20)	1120 (100.00)
	昭59	321 (22.37)	256 (17.84)	265 (18.47)	842 (58.68)	85 (5.92)	249 (17.35)	259 (18.05)	593 (41.32)	1435 (100.00)

()%

昭60：昭和60年

昭59：昭和59年

トコア、アマルガムコアの順であった。次に部位別との関係ではキャストコアが、すべての部位で全体の大部分を占めた。また、装着冠の種類との関係を見ると、全部 铸造冠が489個 (58.92%)で最も多く、以下陶材溶着铸造冠が213個 (25.66%)、レジンジャケット冠が84個 (10.12%)の順であった。

考 察

今回の報告は、昭和60年1月から同年12月までの1ヶ年間に松本歯科大学病院補綴診療科を訪れた外来患者に作製、装着された単独冠について、患者総数と地域別患者数、性別と年齢階級別患者

数などを含む4項目について調査したものである。以下、今回の調査成績を総括するとともに、昭和59年の調査報告⁵⁾と比較し考察した。

A. 患者総数と地域別患者数について

患者総数は496名で昭和59年の報告⁵⁾に比較して、146名の減少がみられた。構成率については昭和59年と比較して塩尻市内で4.72%の減少がみられ、また塩尻市内を除く長野県内では逆に2.49%の増加がみられた。これは塩尻市が歯科医院の急増が認められる地区であるにもかかわらず、塩尻市内の人口推移に急激な変化がみられないことと、大学病院補綴診療科としての特殊性によるものであろう。

表6：単独冠の種類別および年齢階級別装着頻度

種類	調査年	年齢階級							計
		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
全部鑄造冠	昭60	5 (0.45)	117 (10.45)	156 (13.93)	154 (13.75)	90 (8.04)	31 (2.77)	10 (0.89)	563 (50.27)
	昭59	8 (0.56)	144 (10.03)	272 (18.95)	156 (10.87)	175 (12.20)	82 (5.71)	6 (0.42)	843 (58.75)
前装冠	昭60	4 (0.36)	100 (8.93)	89 (7.95)	33 (2.95)	49 (4.38)	4 (0.36)		279 (24.91)
	昭59	9 (0.63)	95 (6.62)	116 (8.08)	46 (3.21)	63 (4.74)	9 (0.63)		343 (23.90)
既製陶歯前装冠	昭60								
	昭59								
レジン前装冠	昭60		3 (0.27)	7 (0.63)	8 (0.71)	12 (1.07)	1 (0.09)		31 (2.77)
	昭59	1 (0.07)	3 (0.21)	8 (0.56)	8 (0.56)	25 (1.74)	3 (0.21)		48 (3.34)
陶材溶着鑄造冠	昭60	4 (0.36)	97 (8.66)	82 (7.32)	25 (2.23)	37 (3.30)	3 (0.27)		248 (22.14)
	昭59	8 (0.56)	92 (6.41)	108 (7.53)	38 (2.65)	43 (3.00)	6 (0.42)		295 (20.56)
ジャケット冠	昭60	2 (0.18)	10 (0.89)	20 (1.79)	29 (2.59)	7 (0.63)	24 (2.14)	7 (0.63)	99 (8.84)
	昭59	1 (0.07)	8 (0.56)	23 (1.60)	18 (1.25)	35 (2.44)	30 (2.09)	7 (0.49)	122 (8.50)
レジンジャケット冠	昭60		10 (0.89)	20 (1.79)	29 (2.59)	7 (0.63)	24 (2.14)	7 (0.63)	97 (8.66)
	昭59	1 (0.07)	8 (0.56)	23 (1.60)	18 (1.25)	35 (2.44)	30 (2.09)	7 (0.49)	122 (8.50)
ポーセレンジャケット冠	昭60	2 (0.18)							2 (0.18)
	昭59								
継続歯	昭60		2 (0.18)	7 (0.63)	1 (0.09)	4 (0.36)		1 (0.09)	15 (1.34)
	昭59	1 (0.07)	1 (0.07)	11 (0.77)	4 (0.28)	7 (0.49)	6 (0.42)	1 (0.07)	31 (2.16)
一部被覆冠	昭60	37 (3.30)	44 (3.93)	42 (3.75)	26 (2.32)	9 (0.80)	2 (0.18)	4 (0.36)	164 (14.64)
	昭59	1 (0.07)	44 (3.07)	22 (1.53)	12 (0.84)	7 (0.49)	10 (0.70)		96 (6.69)
計	昭60	48 (4.29)	273 (24.38)	314 (28.04)	243 (21.70)	159 (14.20)	61 (5.45)	22 (1.96)	1120 (100.00)
	昭59	20 (1.39)	292 (20.35)	444 (30.94)	236 (16.45)	292 (20.35)	137 (9.55)	14 (0.98)	1435 (100.00)

()%

昭60：昭和60年

昭59：昭和59年

B. 性別および年齢階級別患者数について

男女比については男が214名43.15%、女が282名56.85%と女の方が68名13.71%ほど多かった。これは、伊藤²⁾、平野³⁾、杉本⁴⁾、大野⁵⁾らの報告と同様の傾向であるが、小森^{6,7)}、河原^{8,9)}、天野¹⁰⁾、入野¹¹⁾、岸¹²⁾、加藤^{13,14)}、中島¹⁵⁾、平沼¹⁶⁾、宮内¹⁷⁾らの報告と比較すると男女差が少ないのは、大学病院所在地の塩尻市が世帯業態において専業あるいは兼業農家の多いことと、人口が6万以下の地方

都市であることが一因となっているであろう。今後交通網の発達、あるいは近郊都市からの患者来院数の増加などにより、来院患者の構成率の変化も考えられるところである。

年齢構成では20歳代から50歳代までの患者構成率が80%以上を占め、これは昭和59年までの報告¹⁻⁵⁾と同傾向にあり、齶歯罹患率と年代別処置歯率⁴⁾とも一致した結果である。

単独冠装着総数において315個(21.95%)の減

表7：単独冠の種類別および性別装着頻度

種類	調査年	性別		計
		男	女	
全部铸造冠	昭60	212 (18.93)	351 (31.34)	563 (50.27)
	昭59	342 (23.83)	501 (34.91)	843 (58.75)
前装冠	昭60	96 (8.57)	183 (16.34)	279 (24.91)
	昭59	90 (6.27)	253 (17.63)	343 (23.90)
既製陶歯前装冠	昭60			
	昭59			
レジン前装冠	昭60	19 (1.70)	12 (1.07)	31 (2.77)
	昭59	9 (0.63)	39 (2.72)	48 (3.34)
陶材溶着铸造冠	昭60	77 (6.88)	171 (15.27)	248 (22.14)
	昭59	81 (5.64)	214 (14.91)	295 (20.56)
ジャケット冠	昭60	50 (4.46)	49 (4.38)	99 (8.84)
	昭59	54 (3.76)	68 (4.74)	122 (8.50)
レジン ジャケット冠	昭60	50 (4.46)	47 (4.20)	97 (8.66)
	昭59	54 (3.76)	68 (4.74)	122 (8.50)
ポーセレン ジャケット冠	昭60		2 (0.18)	2 (0.18)
	昭59			
継続歯	昭60	4 (0.36)	11 (0.98)	15 (1.34)
	昭59	19 (1.32)	12 (0.84)	31 (2.16)
一部被覆冠	昭60	67 (5.98)	97 (8.66)	164 (14.64)
	昭59	55 (3.83)	41 (2.86)	96 (6.69)
計	昭60	429 (38.30)	691 (61.70)	1120 (100.00)
	昭59	560 (39.02)	875 (60.98)	1435 (100.00)

()%

昭60：昭和60年

昭59：昭和59年

少がみられたが、これは患者数146名の減少と歩を一にしたものと考え。

C. 単独冠について

年齢階級別装着頻度では、20歳代から50歳代までの装着数の占める割合が全体の80%以上に達し、この傾向は今までの一連の報告¹⁻⁵⁾や他の報告⁶⁻¹⁹⁾とも一致している。

性別装着頻度では、男女差は昭和59年の報告⁵⁾と同様にその差は広がりつつあるが、このことは

患者構成が都市近郊型患者構成²⁰⁾への移行を示していると思われる。

部位別装着頻度では、上顎では前歯部、大白歯部、小白歯部の順で、下顎では大白歯部、小白歯部、前歯部の順であった。このことは昭和59年までの報告¹⁻⁵⁾、あるいは他の報告^{6,8)}および齶蝕罹患率²¹⁾から考えると充分にうなづけるものであった。

支台歯の生、失活歯別装着頻度では、失活歯支台のものが全体の75%以上を占めた。これは他の報告^{1-7,10,11,18,19)}とも同様の傾向であり、歯内療法²²⁾の発達および歯牙保存の考え方の浸透による影響が大きいと思われる。

種類別装着頻度では、構成率からみると59年度⁵⁾と同様に全部铸造冠が減少し、前装冠、なかでも陶材溶着铸造冠あるいは一部被覆冠の構成率が増加した。これは残存歯質に対する配慮と患者の審美性に対する要求の高まりがこうした成績になったものと考えられる。

支台築造体では、昭和59年まで¹⁻⁵⁾と同様に铸造コアが最も高い使用頻度を示した。支台築造の基本として、これは松本歯科大学病院が教育病院としての性格をもっている以上、支台築造法の基本である铸造コアの頻度が高いのは容易に理解できるところである。

結 論

松本歯科大学病院補綴診療科に昭和60年1月から同年12月までの1年間に来院した患者および作製、装着された単独冠を中心にその頻度の調査を行い、以下の結果を得た。

1. 患者総数は496名で女性が56.85%を占めた。また年齢階級別構成率でも20歳代から50歳代までが全体の87.70%を占めた。

2. 地域別患者数では、塩尻市内在住者を除く長野県内の患者が、56.85%を占めた。

3. 単独冠および架工義歯の装着数はそれぞれ1120個と260装置を数えた。

4. 単独冠について

イ) 年齢階級別装着頻度は30歳代が最も多く、20歳代から50歳代までが全体の88.30%を占めた。

ロ) 支台装置の種類別装着頻度は全部铸造冠が大半を占め、次いで陶材溶着铸造冠であった。

ハ) 部位別装着頻度では、上顎が下顎を上回り、

表 8：単独冠の種類別および部位別装着頻度

種類	調査年	部位	頻度								
			3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
全部鋳造冠	昭60		105 (9.38)	190 (16.96)	295 (26.34)		129 (11.52)	139 (12.41)	268 (23.93)	563 (50.27)	
	昭59		181 (12.61)	234 (16.31)	415 (28.92)		203 (14.15)	225 (15.68)	428 (29.83)	843 (58.75)	
前装冠	昭60		198 (17.68)	25 (2.23)	4 (0.36)	227 (20.27)	26 (2.32)	21 (1.88)	5 (0.45)	52 (4.64)	279 (24.91)
	昭59		229 (15.96)	45 (3.14)	2 (0.14)	276 (19.23)	35 (2.44)	25 (1.74)	7 (0.49)	67 (4.67)	343 (23.90)
既製陶歯前装冠	昭60										
	昭59										
レジン前装冠	昭60		24 (2.14)	1 (0.09)		25 (2.23)	5 (0.45)	1 (0.09)		6 (0.54)	31 (2.77)
	昭59		33 (2.30)	3 (0.21)		36 (2.51)	12 (0.84)			12 (0.84)	48 (3.34)
陶材溶着鋳造冠	昭60		174 (15.54)	24 (2.14)	4 (0.36)	202 (18.04)	21 (1.88)	20 (1.79)	5 (0.45)	46 (4.11)	248 (22.14)
	昭59		196 (13.66)	42 (2.93)	2 (0.14)	240 (16.72)	23 (1.60)	25 (1.74)	7 (0.49)	55 (3.83)	295 (20.56)
ジャケット冠	昭60		72 (6.43)	2 (0.18)		74 (6.61)	25 (2.23)			25 (2.23)	99 (8.84)
	昭59		83 (5.78)			83 (5.78)	38 (2.65)	1 (0.07)		39 (2.72)	122 (8.50)
レジンジャケット冠	昭60		70 (6.25)	2 (0.18)		72 (6.43)	25 (2.23)			25 (2.23)	97 (8.66)
	昭59		83 (5.78)			83 (5.78)	38 (2.65)	1 (0.07)		39 (2.72)	122 (8.50)
ポーセレンジャケット冠	昭60		2 (0.18)			2 (0.18)					2 (0.18)
	昭59										
継続歯	昭60		6 (0.54)	2 (0.18)	4 (0.36)	12 (1.07)		1 (0.09)	2 (0.18)	3 (0.27)	15 (1.34)
	昭59		9 (0.63)	5 (0.35)	2 (0.14)	16 (1.11)	8 (0.56)	5 (0.35)	2 (0.14)	15 (1.05)	31 (2.16)
一部被覆冠	昭60		4 (0.36)	27 (2.41)	42 (3.75)	73 (6.52)	3 (0.27)	27 (2.41)	61 (5.45)	91 (8.13)	164 (14.64)
	昭59			25 (1.74)	27 (1.88)	52 (3.62)	4 (0.28)	15 (1.05)	25 (1.74)	44 (3.07)	96 (6.69)
計	昭60		280 (25.00)	161 (14.38)	240 (21.43)	681 (60.80)	54 (4.82)	178 (15.89)	207 (18.48)	439 (39.20)	1120 (100.00)
	昭59		321 (22.37)	256 (17.84)	265 (18.47)	842 (58.68)	85 (5.92)	249 (17.35)	259 (18.05)	593 (41.32)	1435 (100.00)

()%
昭60：昭和60年
昭59：昭和59年

歯群別では上顎前歯部が最も多く、下顎前歯部が最も少なかった。

ニ) 支台歯の生、失活歯別装着頻度において、失活歯が75.54%を占めた。

ホ) 支台築造体の構成は、キャストコアが93.49%を占めた。

5. 昭和59年の報告と比べると患者数で146名少なく、単独冠と架工義歯の装着数はそれぞれ315個と91装置の減少がみられた。

その他の項目については昭和59年の成績と同様の傾向を示した。

文 献

- 1) 長田淳, 三沢京子, 戸祭正英, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 石原善和, 大野稔, 小山敏, 高橋久美子, 押川卓一郎, 甘利光治(1985)昭和49年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察. 松本歯学, 11: 70~83.
- 2) 伊藤晴久, 竹内利之, 戸祭正英, 長田淳, 三沢京

表9：単独冠支台築造体の種類別および部位別築造頻度

種類	調査年	部位								
		3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	3+3	54 45	8-6 6-8	8+8	8+8 8+8
キャスト コア	昭60	215 (25.90)	117 (14.10)	162 (19.52)	494 (59.52)	42 (5.06)	120 (14.46)	120 (14.46)	282 (33.98)	776 (93.49)
	昭59	275 (23.75)	184 (15.89)	188 (16.23)	647 (55.87)	61 (5.27)	185 (15.98)	196 (16.93)	442 (38.17)	1089 (94.04)
アマルガム コア	昭60			3 (0.36)	3 (0.36)		1 (0.12)	1 (0.12)	2 (0.24)	5 (0.60)
	昭59		3 (0.26)	1 (0.09)	4 (0.35)		2 (0.17)	5 (0.43)	7 (0.60)	11 (0.95)
レジ ン コア	昭60	3 (0.36)	3 (0.36)	8 (0.96)	14 (1.69)	1 (0.12)	4 (0.48)	7 (0.84)	12 (1.45)	26 (3.13)
	昭59	7 (0.60)	7 (0.60)	5 (0.43)	19 (1.64)	2 (0.17)	11 (0.95)	4 (0.35)	17 (1.47)	36 (3.11)
セメント コア	昭60	12 (1.45)	2 (0.24)	4 (0.48)	18 (2.17)		3 (0.36)	2 (0.24)	5 (0.60)	23 (2.77)
	昭59		3 (0.26)	11 (0.95)	14 (1.21)		2 (0.17)	6 (0.52)	8 (0.69)	22 (1.90)
計	昭60	230 (27.71)	122 (14.70)	177 (21.33)	529 (63.73)	43 (5.18)	128 (15.42)	130 (15.66)	301 (36.27)	830 (100.00)
	昭59	282 (24.35)	197 (17.01)	205 (17.70)	684 (59.07)	63 (5.44)	200 (17.27)	211 (18.22)	474 (40.93)	1158 (100.00)

() %
昭60：昭和60年
昭59：昭和59年

表10：単独冠支台築造体の種類別および単独冠の種類別築造頻度

築造体	調査年	単独冠										
		全部 鋳造冠	前 装冠	既 製前 陶装 歯冠	レ ジ ン 前 装冠	陶 材 鋳 造 着冠	ジ ャ ケ ット 冠	レ ジ ン ジ ャ ケ ット 冠	ポ ー セ レ ン ト 冠	継 統 歯	一 部 被 覆 冠	計
キャスト コア	昭60	460 (55.42)	230 (27.71)		28 (3.37)	202 (24.34)	77 (9.28)	77 (9.28)			9 (1.08)	776 (93.49)
	昭59	681 (58.81)	299 (25.82)		43 (3.71)	256 (22.11)	107 (9.24)	107 (9.24)			2 (0.17)	1089 (94.04)
アマルガム コア	昭60	5 (0.60)									5 (0.60)	
	昭59	8 (0.69)	3 (0.26)			3 (0.26)					11 (0.95)	
レジ ン コア	昭60	14 (1.69)	5 (0.60)			5 (0.60)	1 (0.12)	1 (0.12)			6 (0.72)	26 (3.13)
	昭59	26 (2.25)	6 (0.52)			2 (0.17)	4 (0.35)	1 (0.09)	1 (0.09)		3 (0.26)	36 (3.11)
セメント コア	昭60	10 (1.20)	6 (0.72)			6 (0.72)	6 (0.72)	6 (0.72)			1 (0.12)	23 (2.77)
	昭59	18 (1.55)	2 (0.17)			2 (0.17)					2 (0.17)	22 (1.90)
計	昭60	489 (58.92)	241 (29.04)		28 (3.37)	213 (25.66)	84 (10.12)	84 (10.12)			16 (1.93)	830 (100.00)
	昭59	733 (63.30)	310 (26.77)		45 (3.89)	265 (22.88)	108 (9.33)	108 (9.33)			7 (0.60)	1158 (100.00)

() %
昭60：昭和60年
昭59：昭和59年

子，岩崎精彦，石原善和，乙黒明彦，片岡滋，高橋喜博，甘利光治（1985）昭和52年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察，松本歯学，11：

84～102.

3) 平野龍紀，杉本久美子，戸祭正英，石原善和，伊藤晴久，岩崎精彦，乙黒明彦，大野稔，片岡滋，

- 大溝隆史, 甘利光治(1985)昭和55年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察, 松本歯学, 11: 222~244.
- 4) 杉本久美子, 長田淳, 石原善和, 伊藤晴久, 岩崎精彦, 三沢京子, 小山敏, 高橋喜博, 岩根健二, 宮崎晴朗, 甘利光治(1985)昭和58年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察, 松本歯学, 11: 245~269.
- 5) 大野稔, 若井啓三, 石原善和, 乙黒明彦, 片岡滋, 岩根健二, 戸祭正英, 甘利光治, 中根卓, 太田紀雄(1986)昭和59年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察, その1. 単独冠について, 松本歯学, 12: 355~365.
- 6) 小森富夫, 北上徹也, 甘利光治, 里見雅輝, 吉田温, 藤多文雄, 小沢寛, 沢村直明, 松本博, 杉中功一(1977)冠・架工義歯補綴に関する統計的観察 その1. 単独補綴歯冠について, 歯科医学, 40: 688~694.
- 7) 小森富夫, 甘利光治, 阪本義典, 久保一慶, 里見雅輝, 藤多文雄, 沢村直明, 小沢寛, 田中昌博, 齊藤高子(1980)昭和53年における冠・架工義歯補綴に関する統計的観察, その1, 単独補綴歯冠, 歯科医学, 43: 268~276.
- 8) 河原昌安, 谷口勉, 藤本正之, 森勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 山本萬利子, 村山茂樹(1977)大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察, その1, 各種補綴物の装着頻度について, 歯科医学, 40: 916~922.
- 9) 河原昌安, 谷口勉, 藤本正之, 森勝利, 藤田茂信, 今上茂樹, 山本萬利子, 村山茂樹(1978)大阪歯科大学臨床歯科学研究所付属診療所における最近5年間における補綴物の統計的観察, その2, とくに歯冠補綴物について, 歯科医学, 41: 447~454.
- 10) 天野秀雄, 沼倉則正, 高橋美好, 秋山修, 榎本功, 荻野悦志, 小沢英世, 田端義雄, 柳田正治, 山中大和, 前田睦夫(1977)冠・架工義歯の統計的観察, 城歯大紀要, 6: 247~254.
- 11) 入野誠, 渡辺勇一, 穂積英男, 吉田恵夫(1975), 各種補綴物の統計(2), 補綴誌, 19: 317~324.
- 12) 岸弥栄子, 内田忠雄, 笠井彰(1971)冠・橋義歯補綴物の統計的観察, 愛院大歯誌, 9: 116~125.
- 13) 加藤寿彦, 小原久和, 石垣光敏, 若林康郎, 香川博一郎, 塚本勝彦(1974)冠・橋義歯補綴物の統計的観察, 愛院大歯誌, 16: 62~68.
- 14) 加藤寿彦, 香川博一郎, 塚本勝彦, 手島丁也, 瀧川融, 青柳明夫, 村井直子, 竹花庄治(1978), 冠・橋義歯補綴物の統計的観察, 愛院大歯誌, 16: 62~68.
- 15) 中島武, 小林琢三, 山田芳夫, 吉田忠(1977), 各種補綴物の10年間の統計(1), 岩医大歯誌, 2: 22~28.
- 16) 平沼謙二, 藤田直輝, 磯貝貴彦, 飯田盛男, 高島治己(1967), 補綴物の統計的観察, 補綴誌, 11: 109~115.
- 17) 宮内孝雄, 久保田英雄, 田中誠示, 長田昇, 長塚文男(1956), 最近の補綴臨床の統計的観察, 歯科学報, 56: 34~40.
- 18) 新田稔浩, 倉持貞子, 濱田直光, 伊波侃, 戸代原孝義, 花村典之(1983)本学臨床実習におけるクラウンブリッジの統計的観察, 第1報, 鶴見歯学, 9: 327~334.
- 19) 田川七郎, 熊沢裕幸, 栗田英淳, 篠島啓泰, 塩原英二, 竹村真, 中村誠, 新留龍弥, 吉田稔, 松浦寛, 新田稔浩, 花村典之(1985)本学臨床実習におけるクラウン・ブリッジの統計的観察, 第2報, 鶴見歯学, 11: 371~380.
- 20) 中根卓, 近藤武(1987)塩尻市内某歯科医院における補綴物の統計的観察, 松本歯学, 13: 206~212.
- 21) 厚生省医務局歯科衛生課編(1981)昭和56年歯科疾患実態調査報告, 口腔保健協会.